

「防災SDGsすごろく」を活用した 持続可能な開発のための防災教育取組事例



キーワード

防災SDGsすごろく、防災教育、持続可能な開発

○取り組んだきっかけ

ASUの防災プロジェクトは、防災教育を専門とする大学教員集団と企業との産学連携事業です。これまでに複数の防災学習教材を開発してきました。「防災SDGsすごろく」は、ゲーミフィケーションの要素に防災とSDGsを学ぶ教材として開発したものです。

○活動の目的

防災SDGすごろくの体験は、防災とSDGsを効果的に学ぶための有効な教材であり、防災と関連づけてSDGsの各目標を学ぶことにより、防災意識の向上をねらいとしています。

○具体的な内容

防災SDGsすごろくの教材開発と実践

防災SDGsすごろくは、ASUの防災プロジェクトで作成した各発達段階に合わせた防災学習ワークブックからクイズを作成しています。クイズはレベル5～1を設定してあり(表1)、3択ではありますが難しい問題にも挑戦してもらいます。

静岡市内では、大学生や社会人を対象に「防災SDGsすごろくワークショップ」(実行委員会主催)が行われ、約60名が参加しました。5人1組のグループで実践し、駒が進んだ先に書かれたクイズに挑戦。ゴール順位とクイズ正答数を競いました。クイズはSDGsで掲げる目標と同じ17問。終了後は、答え合わせを通じて「災害時に備え、備蓄を考えよう」「住む地域のハザードマップを作ろう」など具体的な行動計画を確認しました。また、参加者は新たな気づきをもとに、自分たちができることについて話し合いました。

このように、5～6人のグループですごろくをすすめるため、グループワークの

実践に適した

教材となっています。

テーマによっては、SDGsハンドブックを使って実践につなげるSDGsアクションについてのヒントを提示し、児童生徒に考えてもらうワークを行います。

表1: SDGsの目標毎の防災クイズのテーマと難易度

目標	クイズのテーマ	難易度
1 貧困	経済規模による災害の格差	5
2 食料	飢饉の原因	4
3 健康	エコミークラス症候群	3
4 教育	ハザードマップ	2
5 ジェンダー	防災分野における女性の活躍	4
6 水とトイレ	災害時に必要な水の量	2
7 エネルギー	再生可能エネルギー	2
8 仕事と経済	災害による失業	3
9 産業と技術	気象衛星	3
10 不平等	先進国と開発途上国の災害被害の格差	3
11 まちづくり	危険な都市	4
12 生産と消費	フードロス問題	1
13 気候変動	地球温暖化が災害に与える影響	2
14 海の豊かさ	放射性物質による海の汚染	3
15 陸の豊かさ	森林破壊が災害に与える影響	2
16 平和と公正	戦争・テロ	5
17 パートナーシップ	開発途上国への災害支援	3

ある中学校では、防災SDGsすごろくを実施前と実施後に防災やSDGsに関する知識、認識を調査しました。

結果からは、防災学習後、「自分の地域のために役立ちたい」、「自分自身の住む地域のお年寄りや障がいを持つ人のために役立ちたい」、「自分が住む地域を良く知るためには、さらに地域学習が大事だと思う」という3つの設問で特に多くの生徒が「そう思う」と回答していました

浜松市内では、中学校や高校の教育機関だけでなく、市民を対象にしたワークショップも開催しており、子どもから大人まで楽しんで学べる防災教育教材となっています。

また、学生たちがファシリテーターとしてグループに入ること、グループワークの活性化もねらいとしています。

現在は、学校や地域に出掛けて教材の普及活動に取り組んでいます。



○期待される効果

第3次学校安全の推進に関する計画では、「学校における安全に関する教育の充実」が推進方策の1つとして示されました。この取組は児童生徒が防災というツールにSDGsというアクションを示すことでより有効な教育効果が期待されます。

SDGsと防災教育の共通点はいかに自分事にするかです。学校現場において防災教育を高めていくためには、有効な教材が必須だと考えます

防災SDGsすごろくは、既に市販化されていますので、教材を購入してもらい学校単位、地域単位で取り組んでいただくことも可能です。



木村佐枝子

健康プロデュース学部・心身マネジメント学科
教授/地域貢献センター長

連携先

浜松市・防災教育学会